

歴史遺産研究

Bulletin of the Department of Historic Heritage,
Tohoku University of Art and Design

第15号

目次

論文

山形県小国町岩井沢遺跡出土の
後期旧石器時代前半期石器群の製作技術分析
金彦中 KIM Eonjung (1)

明治前期の横須賀造船所における
艦船修復事業運営の問題
佐藤光 SATO Hikaru (11)

公儀普請の採石活動と組織
—大坂城石垣石丁場跡小豆島石丁場跡における採石作業の復元—
北野博司 KITANO Hiroshi (29)

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告
青野友哉 AONO Tomoya
北野博司 KITANO Hiroshi
渡部裕司 WATANABE Yuji (51)

北海道伊達市有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告
青野友哉 AONO Tomoya
永谷幸人 NAGAYA Yukihito (59)



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

2021年
東北芸術工科大学
歴史遺産学科

東北芸術工科大学

歴史遺産研究

第15号 2021年

目次

Contents

論文

山形県小国町岩井沢遺跡出土の
後期旧石器時代前半期石器群の製作技術分析

金彦中 KIM Eonjung 1

明治前期の横須賀造船所における
艦船修復事業運営の問題

佐藤光 SATO Hikaru 11

公儀普請の採石活動と組織

—大坂城石垣石丁場跡小豆島石丁場跡における採石作業の復元—

北野博司 KITANO Hiroshi 29

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告

青野友哉 AONO Tomoya

北野博司 KITANO Hiroshi

渡部裕司 WATANABE Yuji 51

北海道伊達市有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告

青野友哉 AONO Tomoya

永谷幸人 NAGAYA Yukihito 59

2019年度 歴史遺産学科 卒業論文

《考古学》

- 吉田 旭 仰向く土偶 —山形県内出土土偶を例として—
上條 瑞貴 縄文晩期青森県津軽・南部地方における注口土器の形態の地域差 —地域差の証明—
鈴木 康介 環境変化による洞穴遺跡の利用変遷 —山形県高島町の洞穴遺跡群の事例を基に—
松浦 綾果 遺跡の立地から考察するイノシシ形土製品
金 彦中 山形県における後期旧石器時代前半期の石器生産 —岩井沢遺跡の石器製作技術の分析—
直井 優斗 石器の形状と使用の跡から見る利き手
堀米 夏実 遺跡からみる「デポ」の用途と機能

《考古学》

- 大風 雅明 旧山形交通三山線関連資料の現状と保存について
佐藤 宏平 城下町都市新庄の変遷
門脇 明保 神社境内の鳥居と社殿の関係性について —山形県東根市、天童市の神社を対象として—
三浦 望 山形城下町の寺院建築の変遷と山形大火 —本堂の屋根を中心として—
後藤 達也 上山市檜下地区の養蚕と副産物「まゆみ」の資源的価値について —食利用を中心に—

《歴史学》

- 船越 恵 山形県における「精神病患者監護法」下の精神病患者とその処遇
東海林 佑 江戸時代後期における最上川舟運の破船と村の役割 —最上川三難所における破船事例を中心に—
佐々木亮輔 天明年間の『事林日記』からみる最上山専称寺
佐藤 光 明治前期の横須賀造船所における艦船修復事業運営の問題

《民俗・人類学》

- 安部 利映 新たな喪の儀礼 —オリジナル会葬礼状を事例に—
小野寺 陸 現代まで受け継がれ続けるこけしの魅力 —宮城県内におけるこけしの用途変遷を事例に—
大宮 拓弥 郷土芸能の現状と未来 —宮城県角田市君萱神楽から見る継続・継承について—
村田 貴史 アニメファンから見た「聖地」とは何か
伊藤 光敏 eスポーツの変遷から見る「一過性」コンテンツの隆盛と未来に関する一考察
義高 樹 地方城館と城下町、その発展と文化的繋がり —舟形町猿羽根楯を事例に—

《民俗・人類学》

- 小野 雄幸 会津塗 惣輪師の道具について
太田 侑樹 自覚されることのない地域変容の姿 —天童市下貫津地域と八幡山を事例に—
阿部 詩織 人と街道の関わりの変遷 —岩手県紫波郡における志和稻荷街道を事例に—
後藤 千慧 「精好仙台平」の研究 —技術の継承と現代社会適応について—
佐藤 優香 魚類供養塚と八郎信仰 —八郎潟周辺地域における漁撈と信仰の繋がり—

東北芸術工科大学『歴史遺産研究』寄稿要項

1. 歴史遺産研究は東北芸術工科大学歴史遺産学科に関連する諸科学に関する論文・研究報告、調査報告等を掲載・発表することにより、学科教育と研究の発展に寄与するものである。
2. 歴史遺産研究に投稿することができる者は、以下の通りとする。1) 東北芸術工科大学の教職員(同客員、非常勤の教員を含む)、2) 東北芸術工科大学の名誉教授、3) その他、歴史遺産学科において適当と認められた者。
3. 原稿執筆における使用言語は日本語・英語を原則とする。
4. 寄稿する原稿には英文タイトルを添付する。
5. 原稿はA4判横書き、1頁2段組みで2,050字(25字×41行)とし、十分な余白を取る。(図、表、写真、図版などはそれぞれ別頁として準備する。さらにそれらのキャプションを別途準備する)。図版類の版下は1頁縦22cm×横14cmとする。
6. 原稿はパソコンで作成し、出力原稿2部(図表、写真等も含める)とCD等を添えて提出する。
7. 原稿の提出は11月末とする。
8. 原稿の提出は東北芸術工科大学歴史遺産学科とする。
9. 掲載した1原稿につき、別刷り50部までを無償とし、それ以上は筆者の負担とする。
10. 歴史遺産研究に掲載された論文等の著作権は、歴史遺産学科に帰属するものとする。

執筆者紹介

北野 博司 (東北芸術工科大学芸術学部 教授)

青野 友哉 (東北芸術工科大学芸術学部 准教授)

渡部 裕司 (酒田市教育委員会)

永谷 幸人 (伊達市噴火湾文化研究所)

金 彦中 (東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科卒業生)

佐藤 光 (東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科卒業生)

東北芸術工科大学
歴史遺産研究 第15号/2021

令和3年3月6日 発行

編集・発行 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科

〒990-9530 山形市上桜田3-4-5

印刷 田宮印刷株式会社